



## 研究活動報告 (設置申請書、継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。)

Web ベースサイネージに関連した研究を NTT サービスエボリューション研究所・ニューフォリア社・ソニー社と共に深め、考察、開発、議論を決着させた。

本活動開始時 (2012 年) に当該活動の目的としていた Web ベースサイネージの普及は今や十分に達成されており、本活動の役割は果たしたと協力会社と合意が形成された。目標の一つであった端末管理機能が市場投入されている Web ベースサイネージ端末の具現化は、既に別方式が実現されていることから標準を作成する意義がなくなったことが確認されている。しかしながら、Web 技術を用いた Web ベースサイネージは活動当初に比べて格段に安価にそして普及していることから、当該活動が本市場に投げかけたインパクト、提言、そして意義は大きかったと言えよう。

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

論文名／著書名、著者名、学協会誌名／発行所、巻・号・ページ、発表／発行年（西暦）等を記入。著者名が多数の場合、主な著者を数名記入して以下を省略し人数のみとしても可。成果が多数で記載しきれない場合は、この頁をコピーして追加して可。

\*Kiyoshi Tanaka, Mushin Nakamura, Kenya Suzuki, Kei Takegami, NTT Service Evolution Laboratories:

<https://www.ntt-review.jp/archive/ntttechnical.php?contents=ntr201708gls.html>

\*Kiyoshi Tanaka, NTT Service Evolution Laboratories:

<https://github.com/kiyoshitanaka/uc/blob/master/Web-based%20Signage%20Use%20cases%20and%20Requirements.html>